貴族の肖像　ムガル絵画　17世紀前半

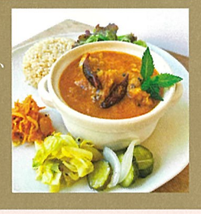
神々を礼拝するマーン・シング王　ラージプト絵画　1795年頃

インド細密画と古典音楽を楽しむトーク&コンサート

日時：2023年11月11日（土）午後2時より
演奏：サワン・ジョシ（シタール奏者）、逆瀬川健治（タブラ奏者）
解説：音ゆみ子（府中市美術館学芸員）
会場：府中市生涯学習センター講堂（府中市美術館より徒歩5分）
無料 予約不要

「インド細密画」展 特別メニュー

会期中、美術館内のカフェ府中乃森珈琲店では、
インドカレーのプレートやチャイなどの
特別メニューをご用意します。
展覧会と合わせてご利用ください。

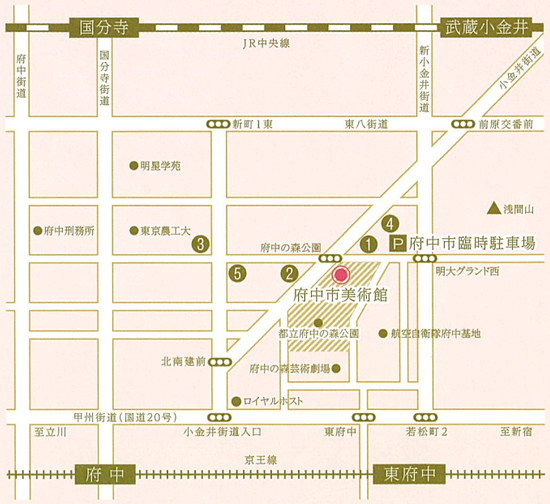


交通案内

- 京王線東府中駅北口から
  - ◎ 徒歩17分
  - ◎ ちゅうバス府中中駅行き「府中市美術館」❶下車すぐ［毎時5分、35分に運行・100円］
- 京王線府中駅からバス
  - ◎ ちゅうバス多磨町行き「府中市美術館」❶下車すぐ［毎時00分、30分に運行・100円］
  - ◎ 武蔵小金井駅南口行き（一本木経由）「天神町二丁目」❷下車すぐ
  - ◎ 武蔵小金井駅南口行き（学園通り経由）「天神町幼稚園」❸下車徒歩8分
  - ◎ 国分寺駅南口行き（東八道路経由）「天神町幼稚園」❸下車徒歩8分
- JR中央線武蔵小金井駅南口からバス
  - ◎ 府中駅行き（一本木経由）「一本木」❹下車すぐ
  - ◎ 府中駅行き（学園通り経由）「天神町幼稚園」❺下車徒歩8分
- JR中央線国分寺駅南口からバス
  - ◎ 府中駅行き（東八道路経由）「天神町幼稚園」❺下車徒歩8分
- お車の場合
  - ◎ 美術館近くの府中市臨時駐車場［無料・54台収容］をご利用ください。

観覧料	一般	高校生/大学生	小学生/中学生
当日券	900円	450円	200円
前売券/団体券（20名以上）	720円	360円	160円

- 10/7（土）～10/9（月・祝）は市民文化の日無料観覧日のため、どなたも無料です。混雑時には入場制限を行いますので、あらかじめご了承ください。
- 前売券は、9/15まで府中中美術館、セブン-イレブン、ローソン、ミニストップで販売します。
- 未就学児および障害者手帳等をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。
- 府中市内の小中学生は「府中っ子学びのパスポート」で無料。
- 常設展もご覧いただけます。



〒183-0001東京都府中市浅間町1-3
ハローダイヤル 050-5541-8600
https://fom-exhibition.com/india2023/

府中市美術館
Fuchu Art Museum

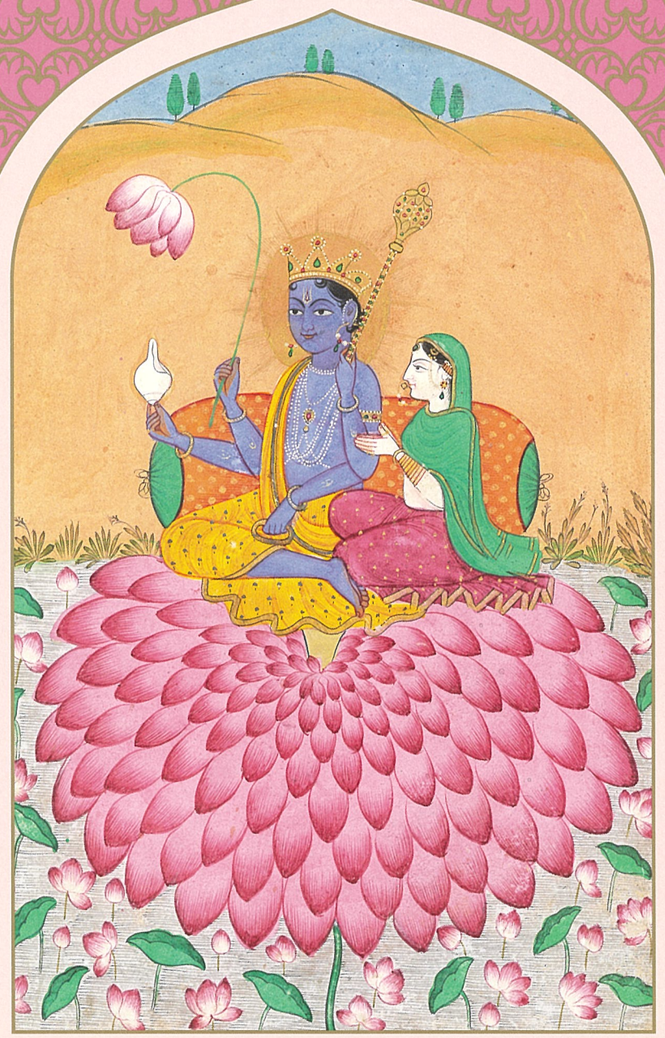
教育委員会定例会資料 12

भारतीय लघु चित्रकारी

インド細密画

宮廷絵画120点との対話

はじめましてインド



府中市美術館

2023 9/16（土）–11/26（日）

【休館日】月曜日［9/18、10/9は開館］、9/19（火）、10/10（火）【開館時間】午前10時から午後5時［入場は4時30分まで］【観覧料】一般900円、高校生・大学生450円、小学生・中学生200円 ＊10/7（土）～10/9（月・祝）は市民文化の日無料観覧日のため、どなたも無料。＊前売券は、9/15（金）まで府中市美術館、セブン-イレブン、ローソン、ミニストップで販売。＊未就学児および身体障害者手帳［ミライロID］等をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。＊府中市内の小中学生は「府中っ子 学びのパスポート」で無料。主催：府中市美術館、日本経済新聞社、東京新聞　応援：インド大使館

神話、音楽、ダンス……インドのすべてがここにある

日本人は古くからインドに憧れを抱いてきました。仏教誕生の地、想像の彼方にある神秘に満ちた場所だったに違いありません。今日でも多くの日本人にとって、未知の世界であり、それゆえに強く心ひかれる場所ではないでしょうか。昨今のインド料理やヨガ、インド映画のブームにも、これまで触れることのなかった世界との出会いが生んだ高揚感が表れています。一方、インド文化の人気が高まる中でも、絵画にはなじみのない方も多いはずです。例えば西洋絵画のように、豊富に作品を見る機会に恵まれないので、当然でしょう。

インド絵画の精華とも呼ばれる細密画は、16世紀後半から19世紀半ばにかけて、ムガル帝国やラージプト諸国の宮廷で楽しまれた一辺20センチほどの小さな絵です。あえて小さな画面に描くのは「見る人と絵が一対一で対話をする」という考え方があったからです。絵と対話を重ねることは、魂を清める行為でもあったと言います。

ファンタスティックな神話世界、豪華な衣装に身を包んだ王の肖像やしなやかなポーズの女性たち……美しい線と色に彩られた宝石のような絵の中には、人々の自然を崇める心や感性、情熱的な信仰心が込められています。そこには、古代以来、複雑で深遠な文化を築いてきたインドのすべてが刻まれていると言えます。

本展覧会は、日本画家、インド美術研究家の畠中光享氏のコレクションから細密画の優品およそ120点を紹介します。畠中コレクションは、細密画の中でも特にインドらしさが色濃く表れたラージプト絵画が充実した世界有数の個人コレクションです。西洋絵画とも日本絵画とも違う、インド細密画の美の世界をお楽しみいただき、インド文化への興味を深めるきっかけともなれば幸いです。

アサヴァリ・ラーギニー　ラージプト絵画　1760年頃
朝に演奏される曲の旋律型の一つ「アサヴァリ・ラーギニー」を描いている。

音色を絵にする

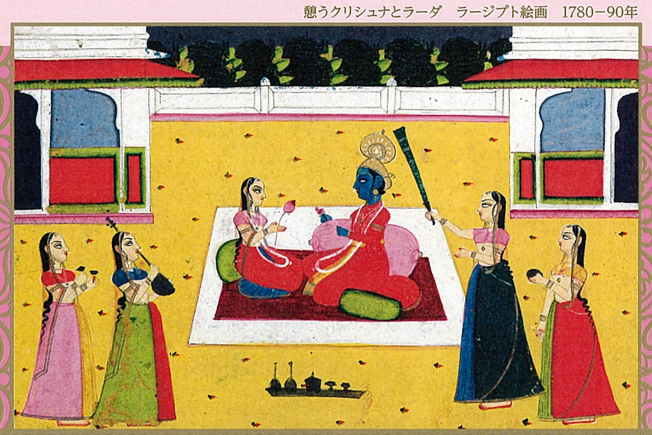
感情を直に揺さぶることを大きな目的とするインド芸術では、音楽はとても重要視されました。細密画でも音楽は大切な主題です。例えば、ラーガマーラ（楽曲絵）と呼ばれるものがあります。宮廷では季節や時間にふさわしい曲が演奏されましたが、それぞれの曲の旋律の型、音色そのものを絵画化したものがラーガマーラです。日本や西洋にはないインドならではの伝統と言えます。

宮廷のクリシュナ　ムガル絵画　1770－80年

愛の絵画

「愛」を芸術のテーマとするのは、インドに限ったことではありません。しかし、インドには古代から愛を描く文学の深い伝統があり、さらに、ヒンドゥー教の発展の中で、恋人を愛するように神を深く慕うことを尊ぶ信仰の形も生まれました。そのため、神々の愛の物語、人間の世界の愛など、愛のテーマの数々が絵画を彩ったのです。

憩うクリシュナとラーダ　ラージプト絵画　1780－90年



楽器を持つ女　ラージプト絵画　1760年頃

神の出現　ラージプト絵画　18世紀中頃

色彩と線の美しさを味わう

インドでは、西洋絵画のようにリアルに描写することを追求しませんでした。色彩や線描といった造形の美しさが、絵を見る人の心に働きかける力を重視したからです。例えば、輝くような黄色の絵の具はインドの特産で、フェルメールら西洋の画家にも愛されましたが、インドの画家たちは、あえて濃淡や陰影をつけず、色の美しさを生かそうとしました。

ヒマラヤの薬草山を持ち帰る猿の国の戦士ハヌマーン　ラージプト絵画　1710－20年

ヴィシュヌとラクシュミ　ラージプト絵画　19世紀中頃

インドの神々と英雄

世界を維持するヴィシュヌや破壊と再生を司るシヴァらヒンドゥー教の神、あるいは、古代の叙事詩『ラーマーヤーナ』に登場するラーマ王子やハヌマーン。神々や英雄は細密画の中心的モチーフです。私たちには縁遠いようにも思えますが、仏教を通じて日本にも伝わり、例えば、ヴィシュヌは馬頭観音、シヴァは大黒天となりました。『ラーマーヤーナ』も桃太郎の物語の起源と言われています。実はインドは、私たちの文化のルーツにも関わっているのです。